



ジオコラム

あかいわの大地の成り立ち

③ 岩神のゆるぎ岩



ゆるぎ岩は巨大なマグマだまりが隆起してできた！

「ゆるぎ岩」は岩神神社に祀られている御神体の一つで、市指定天然記念物です。これは約8,000万年前（後期白亜紀）に形成された花崗岩と呼ばれる岩石で、赤磐市を代表



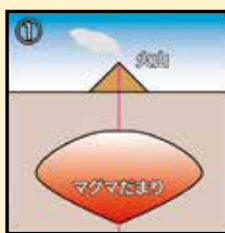
する岩石です。ゆるぎ岩は長さ約4mと約5mの船形の花崗岩がわずかな支点で重なったもので、シーソーのように揺り動かせることからこの名がつけました。落ちそうで落ちないことから受験生に人気です。自然の絶妙なバランスを体感するとともに、山頂付近に巨岩が幾重にも重なって分布する様は非日常的で神秘的です。



ジオポイント

● マサとコアストーン

花崗岩は地下数km～10数kmにあった高温のマグマだまりが時間の経過と共にゆっくりと冷えて固まった岩石です（図①）。地表にあった火山や地層が風



雨によって侵食され削られていくと同時に、地下深部にあった花崗岩は長い年月をかけて隆起し、とうとう地表に露出します（図②）。この時、花崗岩には節理と呼ばれる規則正しい割目が発達します。地表付近の花崗岩は、節理に沿って風化され変質しますが、それに囲まれた内部は岩芯（コアストーン）と呼ばれ、硬く新鮮なままです（図③）。花崗岩全体の風化が進むと節理周辺はマサ（真砂）と呼ばれる軟弱な砂状になり、少しずつ崩れてコアストーンだけがその場所に残るようになります。ゆるぎ岩は、花崗岩からマサが流れ出したことによって上下2つのコアストーンが直接重なったものです。



もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう！

▶ 地球史研究所 ☎956-3538（※外出中で不在のときもあります）

● 問い合わせ先／本庁政策推進課 ☎955-2692